

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
9	川崎市立富士見中学校	猫橋 則文

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○いのちの大切さを尊重できる人</li> <li>○生きる力を育める人</li> <li>○みずから正しい判断のできる人</li> <li>○豊かな情操を持つ人</li> <li>○勤労を愛する人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が毎日を生きて生活することができ、学習面も合わせて充実感・達成感を持てる喜びの場としての学校づくりをめざす。</li> <li>○学級や学校が、すべての生徒にとって安心して過ごせる場所となるよう指導体制の強化を図る。</li> <li>○学校の主役は、生徒であることを基盤として、誰もが学校で安心して生活ができ、学校が楽しいと思えるような、誰もが学ぶ喜びを感じ、さらに学ぼうとする意欲をもてるような学校づくりをめざしていく。</li> <li>○誰もが富士見中へ来て、よい先生に出会った、よい仲間に出会った、と思える学校づくりをめざしていく。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 魅力ある「わかる授業」と基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分かりやすい授業」「楽しい授業」「ためになる授業」を推進していく。</li> <li>・GIGA端末やチームティーチングを活用し、年度途中においても授業改善が図られるようにする。</li> <li>・川崎市学習状況調査の結果、分析に基づく学習指導の改善を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分かりやすい授業」について、85%以上の生徒が授業を理解できているとアンケートに回答している。</li> <li>・今までの授業を振り返り、GIGA端末を活用した授業改善が図れるように工夫して授業を行うことができた。</li> <li>・チームティーチングによる指導を工夫し実践することで分ける授業に努めることができた。</li> <li>・「思考力」「表現力」を各教科、領域ともに意識的に実践したが、今後も継続していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいを生徒に伝え、「わかる授業」と基礎学力の定着を図ることができるように粘り強く指導する。</li> <li>・教科ごとに個々の習熟度に合わせた指導を行い個人の学習目標を達成できるように工夫する。</li> <li>・学習状況調査等の結果を踏まえ、一人ひとりの学習履修状況を把握し、より良い指導の在り方を検討していく。</li> </ul>
2 人権尊重教育を基盤とした生徒理解・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さわやか」挨拶運動や日常的な声かけ、教育相談活動や校舎内外の巡回を行い、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努めていく。</li> <li>・学校全体で情報を共有し、共通理解を図り、適切な指導に努めていく。</li> <li>・校内リーダー研修会を行いリーダー育成に努め望ましい集団づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒との良好な人間関係を築いていくために、きめ細やかな指導を行うことができた。</li> <li>・教育相談は定着しているが、悩みを抱えたままの生徒もおり、実施後のフォローに工夫が必要である。</li> <li>・長期欠席者には、その要因に合わせて、家庭訪問等の対応に努めている。家庭と連携・協力して、粘り強い対応を継続していく。</li> <li>・集団にある課題・問題を自分達のこととらえ、よりよい生活を築くために、改善向上を図ろうと努める心を育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の生徒指導体制を強化し、より確かな信頼関係づくりに努める。</li> <li>・不登校・長期欠席者に誠意を表し、学校として組織的に関わっていく。</li> <li>・「人権尊重教育」を充実させ、とくに本校独自の企画である「いじめ防止プロジェクト」を充実させ安全で安心できる学校づくりを推進していく。</li> <li>・特別活動を充実させることで「望ましい集団づくり」を行う。</li> </ul>
3 家庭との連携・生徒理解を重視したきめ細かい生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月2日間行われる、「さわやか」挨拶運動において、保護者、地域関係者、生徒、教職員が一体となって取り組んでいく。</li> <li>・日常的な声かけ、教育相談活動や校舎内外の巡回を行い、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努める。</li> <li>・学校全体で情報を共有し、共通理解を図り、適切な指導に努める。</li> <li>・校内リーダー研修会を行いリーダー育成に努め望ましい集団づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒との良好な人間関係を築いていくために、きめ細やかな指導を行うことができた。</li> <li>・教育相談は定着しているが、悩みを抱えたままの生徒もおり、実施方法にさらなる工夫が必要である。</li> <li>・長期欠席者には、その要因に合わせて、家庭訪問等の対応に努めている。家庭と連携・協力して、粘り強い対応を継続していく。</li> <li>・集団としての課題・問題を自分達のこととらえ、よりよい生活を築くために、改善向上を図ろうと努める心を育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の生徒指導体制を強化し、より確かな信頼関係づくりに努める。</li> <li>・特別活動や体験的学習を充実させることで「望ましい集団づくり」を行っていく。</li> </ul>

4 キャリア在り方生き方教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の在り方を見直し、学校で行われる様々な教育活動を実施していく基盤と捉え研究していく。</li> <li>・生徒が学校そのものに関心を持ち、より積極的に、より充実した毎日を送ることができ自己表現が図れるように支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア在り方生き方教育」の視点から、学校教育の在り方や教育活動を見直すことができた。</li> <li>・また、職員の共通理解を深めることができた。</li> <li>・市制100周年事業の取り組みを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科との関連についての研究を深めていけるようにする。</li> <li>・3年間を通してきめ細やかな「キャリア在り方生き方教育」を進め、夢や希望の実現につながるように研究を深めていく。</li> </ul>
5 支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒への組織的な対応を行う。</li> <li>・情報共有、効果測定、学習相談、教育相談等とあわせて生徒の状況把握に努める。</li> <li>・学習室(別室)の在り方を検討し、校内体制として構築していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修をとあわせて、生徒理解と指導の在り方について理解が深まった。</li> <li>・学習室(別室)の在り方を検討し、年度途中から運営することができた。</li> <li>・教員の生徒へのより良い言動について研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒等、様々な課題を抱えた生徒に対して、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応えるために、校内支援体制をさらに整え支援教育を充実させる。</li> </ul>
7 研修・研究・研鑽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組むべき教育課題や今日的な課題について研修していく。</li> <li>・教職員の服務についての研修を行う。</li> <li>・学習指導及び学習評価の在り方について研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に外国につながる日本語支援が必要な生徒への理解と支援の方法について研修を行った。</li> <li>・支援が必要な生徒への理解と適切な支援について研修を深めることができた。</li> <li>・教職員の服務について、管理職が日ごろから注意喚起を行い、全体の意識が高まった。</li> <li>・授業研究等をはじめ指導法の改善及び学習評価についての考え方や評価方法について研修を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、課題としてあがった件について、教職員同士で改善点を確認し次年度により良い方法を考えていく。</li> </ul>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>【学校評価アンケート結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業に関して85%の生徒が理解できていると感じている。</li> <li>・家庭学習の定着については、生徒の25%、保護者の50%ができていないと回答している。</li> <li>・あいさつをしていると回答した生徒が95%近く、思いやりを持って行動することを心がけていると回答した生徒が95%以上になった。</li> <li>・大半の生徒が学校が楽しいと回答したが、10%程の生徒が楽しくないと回答した。</li> <li>→この結果を課題として捉え、全生徒対象の支援教育を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>【保護者(PTA等)、保護司会、学校運営協議会のメンバーから】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は地域の行事に積極的に参加している。</li> <li>・概ね、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っている。</li> <li>・一部の生徒に生活面での課題がある。学校と連携して取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>【生徒の意見から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会本部役員と校長との懇談会で、SNSの使い方や学校のルールについて話し合った。</li> <li>・校則の一部見直しを図った。</li> <li>・標準服のモデルチェンジについて話し合った。</li> </ul>	<p>【まとめ】</p> <p>これまでの学校運営体制を振り返り、あらためて人権を尊重する教育の充実が必要であると感じる。そのために生徒一人一人の内面に向き合い、生徒の学びを支え、心に寄り添う指導を進めていきたい。特に不登校生徒の状況把握や対策に関しては、校内組織を充実させ今後も改善しながら重要課題として力を入れた。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒への支援を含め、支援を要する生徒への組織的な対応を行う体制づくりを進めていく。</li> <li>・生徒の学習に対する積極的な姿勢を育成していく。</li> <li>・様々な行事等を通して、他者への思いやり、他者への関わり大切にしていきたい。</li> <li>・生徒の自主性を伸ばし、生徒が生き生きと学校生活を送れる学校運営を推進する。</li> <li>・前向きな声かけを通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合える生徒集団の育成を図る。</li> <li>・魅力ある「わかる授業」と基礎学力の定着を図っていく。</li> <li>・家庭や地域とも連携しながら、本校のよさを伝え、さらに開かれた学校づくりに取り組む。</li> </ul>